

東京証券取引所のXBRLの取り組みとその活用例

XBRL Japan 金融委員会

東京証券取引所(以下、東証)では、上場企業に対して投資判断に重要な影響を与える会社の業務、運営または業績等に関する情報の適時開示(Timely Disclosure)を義務づけています。適時開示は、東証が運営する適時開示情報伝達システム(TDnet)を利用して行われています。2005年には、投資者がインターネット上で開示資料をリアルタイムに閲覧ができるサービスを開始することや、2006年には検索機能を提供するなど、利便性の向上に向けた取り組みが行われています。2003年よりTDnetは決算情報(本決算・中間決算・業績予想修正・配当予想修正)のXBRLデータの入力・蓄積を開始し、2005年には四半期決算情報のXBRLデータの入力・蓄積を開始するなど、XBRLの実用化に向けた取り組みが進められております。

1. 東証のTSE s XBRL SITEで、誰でも自由に"XBRL"を体験できます

東証は、投資者や上場会社など関係者におけるXBRLに対する認知度の向上や導入に向けた取り組みを促す観点から、決算短信(一枚目)XBRLデータを試験公開することにより「誰でも自由に"XBRL"を体験できる環境」を提供しています。

<http://www.tse.or.jp/listing/xbrl/index.html>

2. 試験公開サイトの利用例

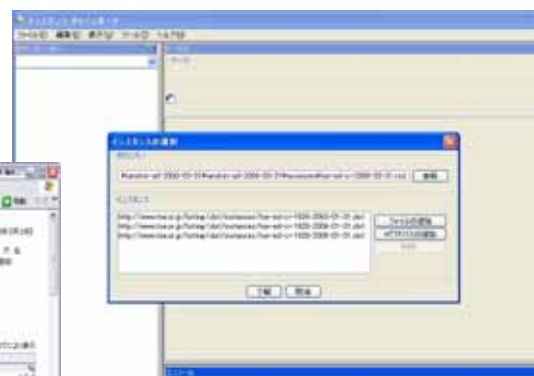
試験公開されているデータ



通常の表示も可能

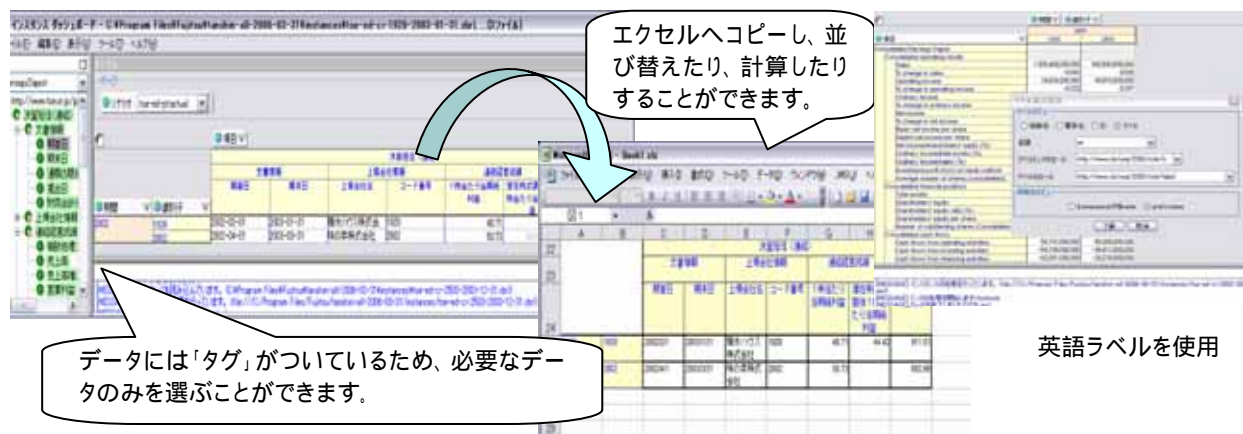
平成15年11月期 決算短信(連結)

項目	金額(百万円)	前年同期(百万円)	増減(百万円)	増減率(%)
売上高	1,000,000	950,000	50,000	5.3%
営業利益	100,000	90,000	10,000	11.1%
経常利益	120,000	110,000	10,000	9.1%
当期純利益	80,000	70,000	10,000	14.3%



データはURLを指定して取得可能

XBRLデータとして必要なファイルをPC上にダウンロードし、ソフトを使ってこれらのファイルを開くこともできます。「編集」の「クリップボードにコピー」を選択し、EXCELなどへ作成した表のまま転送することが可能です。



3. 従来ではできなかった、こんな便利な利用ができます

現在、TDnet では、PDF にて開示資料の閲覧が可能です。上記の XBRL 試験公開サイトを利用すると PDF では難しかった以下のことが体験できます。

- ・ 複数の会社の財務指標の比較や、同一会社の財務指標の経年比較が簡単にできます。
- ・ 財務指標の項目名称を英文に変換表示できます。
- ・ 財務データを取り込む際、PDF をプリントして入力していた決算短信を XBRL データとして直接取り込みを行うことで、入力の手間を省くことも可能です。

4. 東証の基本方針について

東証は、投資者が決算情報を利用しやすい環境を整備することによる、市場機能向上を目指し、2008 年度を目途として、適時開示制度における決算情報(決算短信等)について、以下のとおり XBRL を本格導入することを基本方針としています。

- ・ 適時開示制度における決算情報の授受・提供について、XBRL を活用する。
- ・ 適時開示制度における決算情報における XBRL の活用については、決算短信の1枚目に加え、基本財務諸表を対象とする。

5. 将来、XBRLが本格導入される際には、次のような対応が想定されます

(上場会社)

- ・ XBRL ファイルを開示資料として登録
- ・ 自社で使用している勘定科目について、標準科目(標準タクソノミ・業種別タクソノミ)でデータ作成可能か確認し、必要に応じ勘定科目の追加(個社別タクソノミ)を実施

(投資家等 TDnet 利用者)

- ・ XBRL 分析ツールの利用
- ・ XBRL データの既存システムへの取り込み

現在の試験公開は、決算短信1枚目データのみが対象ですが、今後は、財務諸表本体をはじめとして、コーポレートガバナンス報告書など企業の基本情報がタグ付の XBRL データとして提供されることが見込まれています。また、徐々に決算短信全体が XBRL 化されることによりさらに高度な利用が可能となることが期待されています。

今後、金融委員会では、東証が提供する XBRL データを利用した実証実験や有効的な利用方法を研究するといったユーザー側からの検討を進めていきます。

以上